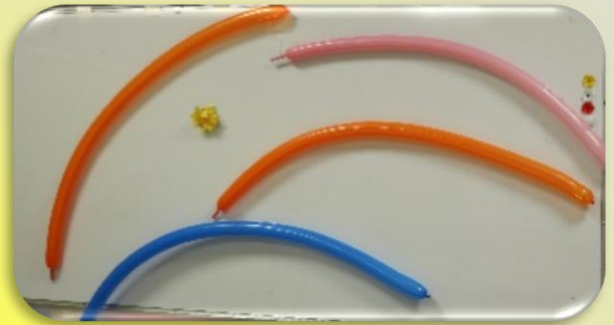


## 後期 第3回 キッズサイエンスクラブ 12月16日(土)

12月の小学生土曜クラブ「キッズサイエンスクラブ」では、「静電気」について、調べたり、実験したりしました。

### 静電気

冬になると空気が乾燥して、静電気が発生しやすくなります。セーターなどを脱ぐときにバチバチとなったり、ドアノブを触ったときに火花が散ったりすることがあります。もの同士が擦れあったときに静電気が発生します。今回のキッズサイエンスクラブでは、そんな静電気についていろいろな実験をしました。静電気の発生した風船は、いろいろなところにくっきます。子どもたちは、壁やホワイトボード、ドア、ガラスなど、どこにくっつくか調べていました。



風船をペーパータオルや服でこすると静電気が発生します。静電気の発生した風船はホワイトボードや天井など様々なところにくっきます。



### 電気クラゲ

荷造り用のポリエチレンのテープを細く裂いてペーパータオルなどで擦って、空中に放りあげるとクラゲのように広がって、静電気を発生させた風船で自由にあやつることができます。空中をふわふわとただよう様子は、クラゲが水中を泳いでいるようです。



### 天使の輪



レジ袋を横に細く切って広げると輪になります。その輪を、電気クラゲのときと同じようにペーパータオルなどで擦って静電気を発生させると輪が広がって空中をただようようになります。それを、静電気の発生した風船であやつれば、天使の輪になります。

## 静電気を発生させる

ものものをこすり合わせると静電気が発生することがあります。土曜クラブでは、電気クラゲや天使の輪の実験を行いました。ポリエチレンテープやレジ袋をペーパータオルや化学繊維の服で擦って、「+」と「-」の静電気が発生させて実験を行いました。

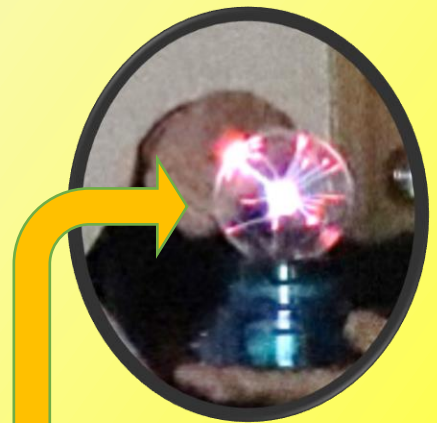


静電気には「+」と「-」があるので、磁石と同じように同じ電気（「+」と「+」や「-」と「-」）は反発しあい、違う電気（「+」と「-」）は引き付けあいます。この性質を使って、ものにくっつけたり、電気クラゲや天使の輪のように、ふわふわ浮かせたりしています。

## 放電

電気が空中を流れると雷のように光ることがあります。

暗いところで放電させると、怪しい光を見ることができます。その様子が右の写真です。



右の放電は、音でも反応するようになっています。拍手をしたり声を出したりすると光るようになっているもので、子どもたちと音を出して楽しみました。また、ガラスの表面に指を付けると、そこに光が集まってきます。そしてその場所が温かくなることもわかりました。

